

(5) ナシ
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	FRAC コード	適用病害名										注意事項	
			赤 星 病	黒 星 病	輪 紋 病	胴 枯 病	心 腐 れ 症	う ど ん こ 病	ゆ 合 促 進					
アクサーフロアブル	ジ [®] フェノキサゾール・フルキサビ [®] ロキサト [®]	3・7	◎	◎	◎					◎				
アミスター10フロアブル	アゾキシストロビ [®] ン	11		◎	◎					◎				
アンビルフロアブル	ヘキサコナゾール	3	◎	◎	◎					◎				
インダーフロアブル	フェン [®] コナゾール	3	◎	◎	◎					◎				
オーシャイン水和剤	オキサ [®] コナゾール [®] フマル酸塩	3	◎	◎						◎				
オキシラン水和剤	キャブ [®] タン [®] ・有機銅	M04・M01		◎	◎									
オンリーワンフロアブル	テブ [®] コナゾール	3	◎	◎	◎					◎				
カナメフロアブル	インビ [®] ルフルキサム	7	◎	◎	◎									
キノンドーフロアブル	有機銅	M01		◎	◎									
サンリット水和剤	シメコナゾール	3	◎	◎						◎				
スクレアフロアブル	マンデ [®] ストロビ [®] ン	11		◎	◎	◎	◎	◎	◎					
スコア顆粒水和剤	ジ [®] フェノキサゾール	3	◎	◎	◎									
ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル	11		◎	◎					◎				
セルカディスDフロアブル	ジ [®] チアノ [®] フルキサビ [®] ロキサト [®]	M09・7	◎	◎	◎					◎				
デランフロアブル	ジ [®] チアノ [®]	M09	◎	◎	◎			◎						
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	1		◎	◎	◎	◎	◎	◎					
トップジンMペースト	チオファネートメチル	1			◎	◎					◎			塗布
トリフミン水和剤	トリフルミゾール	3	◎	◎						◎				
ナリアWDG	ビ [®] ラクロストロビ [®] ン [®] ・ボ [®] スカリト [®]	11・7		◎	◎					◎				
パスポート顆粒水和剤	TPN	M05		◎										
バッチレート	有機銅	M01				◎					◎			塗布
パレード15フロアブル	ビ [®] ラジ [®] フルミト [®]	7	◎	◎	◎					◎				
ファンタジスタ顆粒水和剤	ビ [®] リバ [®] ンカルブ [®]	11		◎	◎			◎						トキアグリレート系剤と交差耐性の事例が報告されているので、同系統の薬剤の連用は控える。
フルーツガードWDG	キャブ [®] タン [®] ・ペンチオ [®] ビ [®] ラト [®]	M04・7	◎	◎	◎					◎				
フルーツセイバー	ペンチオ [®] ビ [®] ラト [®]	7	◎	◎						◎				
ベフラン液剤25	イミクダジ [®] ン酢酸塩	M07		◎										収穫後～休眠期に使用する。
ベルコートフロアブル	イミクダジ [®] ンアル [®] シル酸塩	M07		◎	◎					◎				
ベンレート水和剤	ベ [®] ニル	1		◎	◎	◎	◎	◎	◎					

農 薬 名	成 分 名	FRAC コード	適 用 病 害 名							注 意 事 項
			赤 星 病	黒 星 病	輪 紋 病	胴 枯 病	心 腐 れ 症	う ど ん こ 病	ゆ 合 促 進	
ボルドー液（硫酸銅・生石灰）	塩基性硫酸銅	M01		◎	◎					ボルドー液の輪紋病登録は、マルア硫酸銅，ヤマタ印ボルドー液用粉末生石灰のみ。
ユニックス顆粒水和剤47	シロジニル	9		◎						
ラリー水和剤	マイクロタニル	3	◎	◎						
I C ボ ル ド ー 4 8 Q	塩基性硫酸銅	M01		◎						

注) イミダジン酢酸塩とイミダジンアルベシ酸塩は、成分が「イミダジン」として取り扱われるので、使用の際は有効成分の総使用回数を超えないように注意する。

ウ 病害虫防除法（ナシ）

（ア）赤星病 *Gymnosporangium asiaticum*

（防除のねらい）

病原菌はビャクシン類の組織内で越冬し、3～4月頃冬孢子層を形成する。これが降雨時に膨潤、飛散して開花期前後にナシへ伝搬する。さらに、晩春～初夏にかけてビャクシン類へ伝搬して寄主交代を行う。

防除時期は黒星病の防除適期と重なるので、同時防除が可能な薬剤を使用する。発生は、慣行防除を行っていれば特に問題にはならない。

（耕種的防除法）

ナシ園周辺のビャクシン類（カイツカイブキ、ハイビャクシン等）はできるだけ取り除く。

（イ）黒星病 *Venturia nashicola*

（防除のねらい）

病原菌はりん片や罹病落葉で越冬し、3月下旬～6月及び秋季に低温で降雨量が多いと発生しやすい。「豊水」、「幸水」で発生が多く、「幸水」では果実への後期感染もみられる。

薬剤防除はりん片脱落期～落弁期、4～5月の感染初期、秋季のりん片感染時に重点を置く。

（耕種的防除法）

- （1）春季の芽基部病斑及び罹病葉はせん除し、罹病落葉は処分する。
- （2）2次伸長しないように肥培管理を行う。

（ウ）輪紋病 *Botryosphaeria berengeriana*

（防除のねらい）

病原菌は、主に枝のいぼ内に形成された柄子殻で越冬する。柄胞子は2月下旬～10月下旬まで溢出するが、5月下旬～8月上旬が多い。枝・果実とも5～7月の感染が多く、皮目感染、傷感染を行う。

「幸水」、「豊水」などで発生が多く、無袋での被害は大きい。

（耕種的防除法）

- （1）冬季に罹病枝のせん除または病患部（いぼ皮）の削り取りを行う。
- （2）袋掛けを早めに行う。
- （3）樹勢を強化するため、排水不良園は排水を良くする（暗きょ排水等）。

（エ）胴枯病 *Diaporthe eres*

Diaporthe medusaea

（防除のねらい）

病斑は春～初夏に生じ、6～9月にかけて盛んに拡大する。発病は樹齢10年くらいまでの枝に多い。発病には品種間差があるが、特に「幸水」は弱く程度がひどいと主枝を失うこともある。

また、暖冬年、肥料の過不足時や樹勢が弱ると発生しやすい。

（耕種的防除法）

- （1）発病した小枝は切除し、中～太枝は病斑部を削って殺菌塗布剤を塗る。樹液の豊富な傷ほど発病しやすいので、早めに処理する。
- （2）土壌改良や肥培管理によって樹勢を強化する。

（オ）うどんこ病 *Phyllactinia pyri*

（防除のねらい）

病原菌は、主枝、垂主枝及び発育枝に形成した子のう殻で越冬する。子のう殻は、4月頃から裂開して子のう胞子を飛散する。5月中旬頃から発生して、特に夏から秋にかけて高温乾燥が続くと多発することがあるが、本県での発生は少ない。

（カ）ナシヒメシンクイ

（防除のねらい）

成虫は4月上中旬、5月下旬、6月下旬、7月中旬～9月に発生する。特に越冬世代と第3～4世代の発生が多い。袋掛けにより被害を防止できるが、袋掛け前の防除が行われなかった場合は大きな被害を受けることもある。また、果実袋の上から加害されることもある。

(耕種的防除法)

- (1) 袋掛け前には必ず薬剤防除を行い、早めに袋掛けする。
- (2) 秋冬季に粗皮削りを行う。

(生物的防除法)

性フェロモン剤による防除

(キ) ハダニ類

(防除のねらい)

ナシを加害するハダニ類は数種類いるが、優占種は春季がカンザワハダニ、夏季以降がミカンハダニであることが多い。抵抗性回避のため、同一薬剤を連用しない。また、[合成ピレスロイド剤](#)の使用は、ハダニ類の発生を助長する可能性があるので注意する。

発生が少ないときは休眠期の防除に重点を置き、ハダニアザミウマ、ケシハネカクシの一種、捕食性タマバエ、捕食性ダニ、キアシクロヒメテントウ等の天敵類の保護に努める。

(ク) ナシホソガ

(防除のねらい)

成虫は年2回、6月下旬～7月中旬と8月下旬～9月中旬に発生する。枝に食入すると樹勢が低下するだけでなく、ハダニ類、コナカイガラムシ類、ハマキムシ類等の潜伏場所や、輪紋病、胴枯病菌の侵入口となる。

薬剤防除は、収穫後の8月下旬～9月に重点を置く。

(ケ) コナカイガラムシ類

(防除のねらい)

優占種はマツモトコナカイガラムシとクワコナカイガラムシで、有袋栽培で発生が多い。

防除は、休眠期の粗皮剥ぎ、マシン油等の散布を行うと共に、袋掛け前及び第1世代幼虫発生期の6月中～下旬の薬剤防除に重点を置く。

(耕種的防除法)

- (1) 収穫後、果実袋は処分する。
- (2) 秋冬季に粗皮削りを行う。

(コ) アブラムシ類

(防除のねらい)

ナシアブラムシ、ナシミドリオオアブラムシ、ワタアブラムシやユキヤナギアブラムシの発生が見られる。ナシアブラムシは4～5月、ワタアブラムシやユキヤナギアブラムシは5～6月、ナシミドリオオアブラムシは7月以降に発生が多い。

薬剤防除が遅れ巻葉した場合は、浸透移行性のある[ネオニコチノイド剤](#)等を使用する。

(サ) ナシゲンバイ

(防除のねらい)

高温乾燥時に発生が多い。通常は他の害虫と同時防除されるが、殺虫剤の散布が少なくなる収穫期前後から発生が目立つ。また、成幼虫ともに葉裏を中心に寄生する。

(耕種的防除法)

越冬期に粗皮削りを行うとともに、落葉や下草を除去して密度の低下を図る。

(シ) ハマキムシ類

(防除のねらい)

チャノコカクモンハマキとチャハマキの2種による被害が大きい。両種とも幼虫越冬し、チャノコカクモンハマキは年間4～5回、チャハマキは3～4回発生して、いずれも発生期間が長い。

通常は他の害虫と同時防除される。生物的防除法については、ナシヒメシンクイの項を参照。

(耕種的防除法)

越冬期に粗皮削りを行い、密度の低下を図る。

(ス) カメムシ類

(防除のねらい)

常緑果樹・落葉果樹共通 (4) カメムシ類の項参照。